

その起源はなんと 1701 年！中欧の由緒正しき名門が来日。

ショパン・コンクール第2位受賞者にしてスロヴェニアを第2の故郷とする 最注目ピアニストと贈る、超名作プログラム！

前身であるアカデミア・フィルハーモニコルムの設立は 1701 年。中欧の名門にして欧洲全体の中でも最古の歴史を誇るオーケストラ、スロヴェニア・フィルハーモニー管弦楽団が横浜にやってくる。

カルロス・クライバーやリッカルド・ムーティ、ダニエル・ハーディングなど名だたる指揮者がこれまでに客演するなど、中欧の名門として堂々君臨するオーケストラの公演というだけでも注目だが、ショパン・コンクール 2021 第2位受賞者にしてイタリアとスロヴェニアの両国籍を持つアレクサンダー・ガジェヴを伴っての登場となれば、ますます必聴ものである。ガジェヴは 2015 年に浜松国際コンクールで優勝を飾つて以来、ここ日本でも何度かその演奏を披露してくれたが、聴けば聴くほどその音楽の深化していくことに驚かされる。特に直近の 2025 年 3 月来日時の演奏は、ピアノという 1 台の楽器の可能性を余すところなく引き出す圧巻のテクニック、また作曲者の意図を丁寧に紐解き外連味なく表現する真摯な抒情性には、胸を打たれるものがあった。立派なコンクール受賞歴に注目するだけでなく、その音楽こそぜひ聴いていただきたいピアニストである。

用意された演目は、まさにガジェヴが満を持して用意したラフマニノフ、そしてブラームスの大作だ。

この嬉しい超名作プログラムを彼らで聴ける幸運に、感謝したい。



© Dejan Bulut

カーキ・ソロムニシヴィリ（指揮） *Kakhi Solomonishvili, Conductor*

スロヴェニア・フィルハーモニー管弦楽団首席指揮者、ジョージア・フィルハーモニー管弦楽団及びトビリシ・オペラ・バレエ劇場指揮者。

1990 年 5 月 9 日、ジョージアのトビリシに生まれる。ソロムニシヴィリの音楽人生は、コンサートとフェスティバルに活発に参加するピアニストとして始まった。

2007 年にトビリシ国立音楽院指揮科の試験に合格し、2013 年に修士号を得て卒業。2011 年にトビリシ・オペラ・バレエ劇場のアシスタント指揮者の役割を担う。2014 年より同劇場の指揮者を務めている。2016 年からジョージア・フィルハーモニー管弦楽団との活発な共演活動に従事し、2017 年に指揮者に就任する。

2017 年、音楽部門の「ツイナンダリ賞」を受賞。2022 年からシャルル・デュトワを援助し、ブエノスアイレス・フィルハーモニー管弦楽団、テアトロ・コロンと積極的に仕事をしている。テアトロ・コロンでは、ストラヴィinsky の歌劇「放蕩息子のなりゆき」の初演でデビューを果たしている。国際的な存在感はさらに深まって、2023 年よりスロヴェニア・フィルハーモニー管弦楽団と活発に共演し、2024 年には首席指揮者に就任。その他にもポーランド・バルティック・フレデリック・ショパンフィルハーモニー管弦楽団、イスラエル・シンフォニエッタ、ジョージアン・シンフォニエッタ等、様々な国立オーケストラや国際的なオーケストラと共に演奏している。

今後予定されている出演には、テアトロ・コロン、スロヴェニア・フィルハーモニー管弦楽団、ブエノスアイレス・フィルハーモニー管弦楽団、ブエノスアイレスのマルタ・アルゲリッチ・フェスティバル、ポーランド・バルティック・フレデリック・ショパンフィルハーモニー管弦楽団が含まれる。



© Andrej Grilc

アレクサンダー・ガジェヴ（ピアノ） *Alexander Gadjiev, Piano*

2021 年 10 月第 18 回ショパン国際ピアノ・コンクールで第2位及びクリスチャン・ツィメルマン賞（ソナタ最優秀演奏賞）を受賞。2021 年 7 月シドニー国際ピアノ・コンクールで優勝。2018 年モンテカルロのワールド・ピアノ・マスターで優勝。2015 年第 9 回浜松国際ピアノコンクールで優勝および聴衆賞を受賞。音楽と中央ヨーロッパの文化に囲まれた幼少期はガジェヴの歩みを決定づけた。前者は両親がピアノ教師・音楽家であった環境が大きく、後者は生まれ故郷ゴリツィア（イタリア）に由来する。スロヴェニアとの国境からほど近く、多様な人々・文化・言語がごく自然に交差している街である。これらは、さまざまな音楽様式や音楽言語を貪欲に吸収し、自身に合わせて変化させる天性の能力をそなえたガジェヴに多大な影響をおよぼしてきた。

父に師事し、9 歳の時にオーケストラと初共演、10 歳で初リサイタルを開いた。17 歳で 2013 年、イタリアの教育機関で最高評価を得た若手だけが競うコンクール「プレミオ・ヴェネツィア」への出場を許され、その覇者となった。その後現在にいたるまで出場するコンクールでほぼすべて優勝。2019 年には BBC ニュー・ジェネレーション・アーティストに選ばれ、23 年にはイタリアの権威あるアッピアーティ賞と、スロヴェニアのフレシェーレン賞を受賞。そして 2023/24 年から Unione Musicale のアーティスト・イン・レジデンスを、また「ノヴァ・ゴリツィア・ゴリツィア歐州文化首都 2025」の文化大使を務める。これまでにルイージ指揮/RAI 国立響、ケルギエフ指揮/マリインスキーブルガリエ劇場管、メータ指揮/フィレンツェ五月音楽祭管はじめ、指揮者ではテミルカーノフ、ヴィット、井上道義、高関健、広上淳一、山田和樹らと共に演奏している。ウィーン楽友協会でのスロヴェニア・フィルとの共演も大成功に終わった。2024 年からは毎年ロンドンのウェーブホールでリサイタルを行う。音楽祭への参加も多く、ヴェルビエ音楽祭、オールドバラ音楽祭などに参加している。

スロヴェニア・フィルハーモニー管弦楽団 *Slovenian Philharmonic Orchestra*

前身であるアカデミア・フィルハーモニコルム、フィルハーモニー・ソサイエティ、初代スロヴェニア・フィルハーモニーと共に、スロヴェニア・フィルハーモニー管弦楽団は同種の団体としてはヨーロッパで最古の一つであり、豊かな伝統を誇る。その起源は 1701 年にさかのぼり、イタリアの社会に習って地元の貴族たちがアカデミア・フィルハーモニコルムを創立、その主な目的は音楽芸術の振興であった。ブルジョワジーに支配された時代の間、アカデミアの仕事はフィルハーモニー・ソサイエティに引き継がれ（1794）、中欧における最も良く組織された音楽団体のひとつという評判を獲得する。従って、フィルハーモニー・ソサイエティの名譽会員資格がヨーゼフ・ハイドン、ルードヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン、ニコロ・パガニーニ、ヨハネス・ Brahms 等に受け入れられたのは驚くべきことではない。フィルハーモニー・ソサイエティの主たる目標は器楽曲の演奏であったが、それにより現代の交響楽団の輪郭を形成することとなった。

そうしたオーケストラは、スロヴェニア・フィルハーモニー管弦楽団が創立された 1947 年に本格的に動き出し、それ以前の 1 世紀半の間フィルハーモニー・ソサイエティによって特徴づけられた豊かなコンサートの日常をよみがえらせた。スロヴェニア・フィルは成長を続けたが、それはカルロス・クライバー、リッカルド・ムーティ、シャルル・デュトワ、ダニエル・ハーディング等の客演指揮者のみならず、サム・フード、ウロシュ・ライオヴィッチ、マルコ・レトニヤ等のスロヴェニア人常任指揮者、さらに国際的な名声を誇る偉大なソリスト達に負うところが大きい。

スロヴェニア・フィルは当初はスロヴェニア・フィルハーモニーの大ホールで演奏していたが、1982 年からはカンカルジェフ・ドム文化・会議センターで定期的なコンサートを行っている。リュブリャナの聴衆に様々な定期演奏会シリーズを提供しており、18 世紀、19 世紀の標準的なオーケストラのレパートリーから最も現代的な音楽、それ以前の様式的時代の音楽も含まれ、それは楽団員の多才さを証明している。スロヴェニア・フィルには最高のスロヴェニア人演奏者が集まっており、1990 年からは外国からの優秀な器楽演奏者も多数加わっている。スロヴェニア・フィルの国内の成功と強力な伝統は、海外でも経験することができる。過去数十年間に、スロヴェニア・フィルはツアーやゲスト出演で世界中の格式の高いホールや著名な音楽祭で演奏している。

2019 年からはリュブリャナ・フェスティバルのレジデント・オーケストラを務めている。